# 令和５年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立北小学校

## １．本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

・国語の調査では、無解答率が全国平均と比べて低く、とくに記述式の問題の無回答率はどれも低く、粘り強く問題に取り組む姿が見られます。
・「話すこと・聞くこと」の結果が特に良好です。国語の授業づくりの中で、インタビューやプレゼンテーション・発表といった「話す・聞く」両方の立場になって考える活動に取り組んできた成果であると考えられます。
・算数について対全国比の平均正答率は、下回る結果でした。算数の無解答率は、後半の問題で高くなっています。算数に対する苦手意識から、後半の問題に対する集中力を持続させることが難しくなったことが予想されます。
・算数の調査では、「知識・技能」の観点について課題が見られました。特に「数と計算」や「データの活用」の領域についての設問の正答率が低い結果となりました。

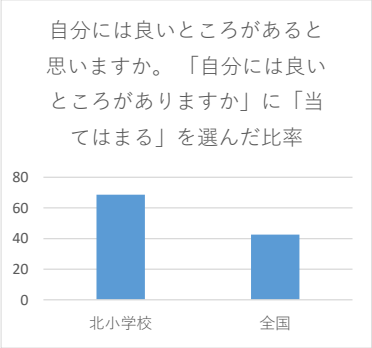
## ２．各教科における成果と課題について

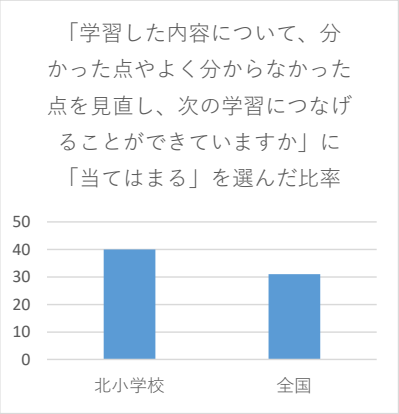
| | 成　果 | 課　題 |
|---|---|---|
| 国語 | ・記述式の問題への無回答率が全て低く、書くことへの意欲がある児童が多くいました。これは、日々の授業、特に国語では毎単元ごとに「終わりの感想」を書くことが定着し、国語での書く学習への習熟の成果が表れていると考えられます。<br>・「話すこと・聞くこと」の領域で、正答率・無答率ともに良好で、質問する人物の意図やねらいを読み取ることができていました。また、会話の流れから登場人物の思いを読み取り、自分の言葉でまとめて書くことも十分できていました。インタビューやプレゼンテーション、発表といった話す側・聞く側双方の当事者となる活動が様々な場面で取り組んだ成果と考えられます。 | ・情報の扱い方に関する事項で、原因と結果といった情報の関係や繋がりを捉える力や、図から読み取れる情報や図の書き方から伝えられている内容を読み取る力に課題が見られました。また、文章の特徴について読み取り、説明を選ぶ問題でも同様の傾向が見られました。<br>・「読むこと」では短い文章や情報から理解することは十分にできていますが、情報が多くなるにつれて読み取る内容が増えてくると無回答率もやや上がり、誤答も増える傾向にあります。<br>・同音異義語の漢字問題に課題があり、普段から漢字を使い分ける習慣を身につけさせる必要があると考えます。 |
| 算数 | ・正方形や正三角形の意味や性質について理解したり、示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に該当するか判断したりする課題の平均正答率が全国よりも高くなっています。日々の授業で、具体物を操作しながら学習活動を進めている成果だと考えられます。 | ・「数と計算」の領域において、（２位数）÷（１位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える問題では、全国の正答率を下回っていました。計算の過程の意味理解に課題が見られます。<br>・「データの活用」の領域において、「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題に課題が見られます。 |

３．児童質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

〈取組みの成果があらわれている、または特徴的であると思われる事項について〉

「自分にはよいところがありますか」の設問では、全国と比べて約 25 ポイント上回っていました。本校では、自己肯定感が高い児童の割合が例年低いことが課題でしたが、昨年度から自己肯定感の数値が飛躍的に上がってきています。「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」の問いに対しても本校は全国の平均より24ポイント上回っており、本校の学校目標の「心豊かに、夢大きく、一人ひとりが輝く学校」にむけて、教員の一人ひとりを認める声かけや、地域・保護者の方々の温かい関りがこの結果につながっていると推察します。

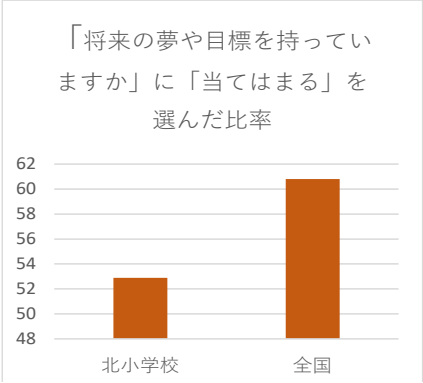


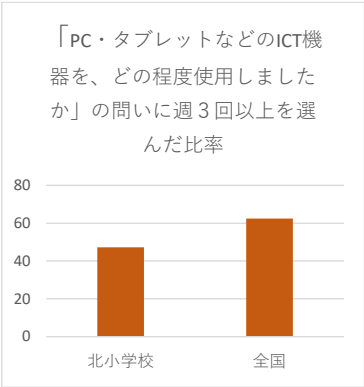




学習面では「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問に対し全国と比べて 9 ポイント上回っています。小学校高学年になるとその日の学習だけでなく、日々の積み重ねが学力に影響してきます。別の設問に「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という問いがありこちらも全国に比べて 13 ポイント上回っていました。「わからない」で終わらせない教員と児童の粘り強さが今回の児童アンケートからうかがうことができます。

〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対しては、全国に比べると8ポイント下まわっています。4 年時に「SDGsダンス」で企業と連携した出前授業を行ったり、5 年時に「わくわくどきどき SDGs」プログラムに参加したりしてキャリア学習を行ってきましたが、将来について考える機会に結び付けるまでに至っていなかったと考えられます。今後も、軸となるキャリア教育を行っていく必要があります。




また、「5 年生までに受けた授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」の設問については「週に 3 回以上」使用しているという回答が昨年度より 15 ポイント上がったものの、全国の平均より15ポイント下回る結果でした。さまざまな教科の授業において、ICT 機器を効果的に活用する方法を検討し取り入れてきましたが、今後もタブレットに触れる機会を設け、調べる、考える、まとめる、伝える場面で効果的に活用していきたいと考えます。

## ４．成果と課題を踏まえた今後の取組みについて

（１）学力向上に向けて

・国語の授業づくり

これまで「確かな学力を育む深い学びの創造～『たい』と『あい』があふれる授業をめざして～」というテーマで取り組んできた国語の授業づくりの研究の成果が見られました。これからも、子どもたちが主体的に考えて、その考えを書き、伝え合う機会を設定してまいります。

・基礎学力の定着

朝の時間や授業のはじめに、計算タイムに取り組んだり、既習事項の確認として、各教科で学習した内容を音読したりする時間を確保してまいります。

・算数への苦手意識の克服

T・T（チーム・ティーチング）や、すき間時間の個別指導を通して、一人ひとりの実態に即したきめ細かな指導・支援を進めます。成就感や達成感を味わえる課題の設定や、スモールステップで取り組める課題の設定を意識した授業づくりをします。また、学習と日常生活との関連を児童が実感できるような指導の工夫をしてまいります。

（２）１人１台端末の活用

本校ではどの教科においても、１人１台タブレット端末を調べ学習や意見交流の場面で、思考と表現の道具として積極的な活用をするように努めています。今後、「基礎学力の定着」のためにもデジタル教材などを活用し、興味をもって意欲的に取り組むことができる一人ひとりに合った個別最適な学習を進める時間を設定します。また、自分の考えや、意見、根拠となる情報や資料をまとめ、相手に示しながら伝えることで、学びが深まるような効果的な活用方法についての研究を進めてまいります。

## ５．保護者・児童・生徒のみなさんへ

＜児童のみなさんへ＞

今回の調査で、北小学校のみなさんは、自分のよいところをたくさん認め、学校でもよいところを認められる経験をたくさんしていることが分かりました。また、地域の行事に参加したり、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思ったりしている人がたくさんいることも分かりました。先生方だけでなく、おうちの方や、地域の方々が力を合わせてみなさんの成長を見守ってくださっていますので、今回の結果をとても嬉しく思っています。

一方で、将来の夢や目標を持つことができていない人もいるようです。新聞や本を読んだり、調べ学習をしたり、多くの人に出会って話を聞いたりすることで視野を広げ、様々な経験をして欲しいと思います。そして、失敗を恐れずに難しいことにもチャレンジしていってください。

＜保護者の皆様へ＞

本校の児童は、決まった時間に寝起きをし、朝食を毎日きちんと食べてリズムよく生活している児童がたくさんいます。保護者の皆様が、子どもたちの心身ともに健やかでたくましい成長を支援していただいていることがこの調査からみることができました。

今回の調査では、国語においては良好な結果となり、算数において課題が残る結果となりました。質問紙の回答でも、算数に苦手感を持つ児童が多くいる結果となりました。今後、課題の改善に向けて全教職員で共有し、取組みの見直しや授業改善を進めてまいります。ご家庭におかれましても授業で学習した内容を宿題などの家庭学習で定着させる時間を取っていただくことで、さらなる学力の向上が期待されると感じます。今後も「心豊かに　夢大きく　一人ひとりが輝く学校」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。